

高校野球の国際試合

— 資料紹介：1930年「春の選抜大会」国際化構想 —

編著者：弘田正典
(スポーツ文献社)

今回は「**選抜大会の国際化構想**」について書かれたサンフランシスコの日本語新聞「**新世界**」(1930年9月8日付)に掲載された記事を紹介します。

全国選抜野球大会を国際的に拡張か 沿岸からも強チームを招く 大毎の小野氏が計画を語る

(羅府支社発)大毎主催全国選抜野球大会で優勝した神戸神港商業野球チームは小野、清原両氏引率六日羅府へ到着オリンピック・ホテルへ投宿中であるが小野大毎代表は非公式に「明春より全国選抜野球大会の範囲(を)広め、米国太平洋沿岸、布哇、比島、支那等の中等学校国際野球大会を催す計画を立て近く具体案を作成して発表する段取りになっている」と(語った)



「大毎の小野氏」とは、戦前の日本野球界を代表する投手のひとりで、大阪毎日新聞社で「春の選抜大会」の委員をつとめた小野三千磨おのみちまるのことです。

小野三千磨 (1897-1956)

小野は、この年の選抜大会で優勝した神港商業チームを引率し、アメリカ各地を訪れ、帰途ロサンゼルスで「選抜大会の国際化構想」を語りました。

小野によると「春の選抜大会を拡張して、アメリカの太平洋沿岸・ハワイ・フィリピン・中国などからも最強チームを招き中等野球の国際大会を開催する」という内容でした。

記事では、「近く具体案を作成して発表する」予定でしたが、その後この計画が実現することはありませんでした。

「選抜大会の国際化構想」は、80年以上も昔にひとりの野球人がベースボールの母国アメリカで語った「夢」であったのかも知れません。

発 行：2017年 6月9日

編著者：弘田正典（スポーツ文献社）

